

努力だけがすべてか

ピアノの練習などでは確かにキャロルの言う「練習時間」は大きな要素になるでしょう。如何に天才といえども全然練習しないで演奏会ができるとは思えません。しかし、多くのピアニストはそれほど朝から晩まで練習しているとも思えません。この練習という行為は多くの場合音楽学習には不可欠のようです。当然そこには「努力」という言葉も見え隠れします。

学習が成立するための四つの要素

	自分に責任がある	他に責任がある
固定された要素	能力・適性	課題の難易度
変動する要素	努力	運・不運

上の表をよく見ると「努力」という文字が見えます。この表は学習が成立するための原因となるものを四つに分けて考えたものですが、「努力」は①変動する要素で、②自分に責任があるものというわけです。同じく変動する要素でも自分に責任が無い要素は「運・不運」というわけです。

初心者いきなりショパンのエチュードを弾けというような課題は①変更できない固定要素で②自分に責任が無い「課題の難易度」に無理があると言う風に考えます。教師がよく口にする言葉「頑張るなさい」は、学習が成立するための要件を「努力」であると自覚させるためのもので、通知簿でも「良くできる」や「努力が必要」等と書かれていますが、本当に足りないのは努力でしょうか？

評価は「理解すること」と前に書きましたが、学習が成立しない原因をただ「努力の不足」という風に父兄も教師も考えがちでは無いでしょうか。「何を」「どのように」そして「なぜ」頑張るのかを知ってこそ努力もできるのであって、ただ歯を食いしばって頑張る行為は長続きしませんし、良い結果は期待できないでしょう。

本誌の多くの読者は楽器製造や販売にかかわっておられます。企業は慈善事業ではありませんから社員やその家族を養ってゆくための成果を出さなければなりません。その目的を達成するには一にも二にもただ「努力」しかないとお考えではないと思います。勿論努力は必要ですが、社員や会社に見合った能力や適性を把握し、無理な課題にいきなり挑戦しないで地道に努力を心がけておられる事でしょう。それでも「神頼み」の心がけで「運」を幸運に向けるよう努力されるでしょう。不幸にして結果が出なかった時この表のどれかが「ゼロ」か「マイナス」に働いたと冷静

に判断できればもう同じ事は起こらないでしょう。会社の成績を評価するのに「数値」を用いるのは用いるのは当たり前ですが、帳簿に残る数値は結果だけであって、因果関係までもが数値化されているものではありません。

ハイテクを評価に導入するには「質」を「量(数値)」に変えたり、「形容詞」を「客観的表現」に置き換える必要があります。「良い」という形容詞を5段階表現にすればやや数値化できた事にはなるでしょうが、それだけでは「良い」に濃淡表現が加わっただけで何も変わりません。

もう一度ハルの式を見てみましょう。

行動＝習慣性の強さ×動因×誘因×反応抑止×刺激の強さ

行動は結果のことです。習慣性の強さ、これは実績や経験から学習されたあるいは練習や勉強の結果身に付いた能力のことで、「無い袖は振れない」の通り絶対必要な要素です。動因は左の表の変動する要素では「努力」や「運・不運」が代表的ですが「動機」や「きっかけ」というのが一般的でしょう。誘因は原因となる因子で固定的要素ですが行動をルールに乗せて方向付ける因子です。マーセルは引力(arresting)つまり「はまる」ということや推進力(impelling)啓示(revealing)達成感(fulfilling)自意識(conscious)などがこの方向性を示していると以前から述べています。反応抑止は制御能力のことでこれが無いと行動は暴走するかゼロになります。演奏家に最も必要な能力とも言えます。刺激の強さはインパクトと言われるもので感動や恐怖などがそれに当たります。

さて、ハル自身によって何回も書き直されたこの式は最終案ではこのようにすべてを掛け算とすることで合理性を見つけ出したのです。掛け算は一つでもゼロになると全体がゼロになります。

教師は前の四つの因子やこのハルの五つの因子を知る事で学習が達成できない子どもの原因を知る事が出来るわけです。「努力」だけの強制は「習慣性」の形成には多少の影響があるかも知れませんが、「能力」や「適性」に応じた適切な「課題」でなければ砂上の楼閣というバブル崩壊は目に見えています。今日の学習は①検証(実証)主義②機能主義③操作主義④行動主義という四つの立場に基づいていますが、「①検証された真実を②それを学ぶ事でどのような能力が形成されるということを踏まえ③しかもそれを達成する方法や手順に基づいて④学習結果が行動として出力される」という哲学なのですが、これは次号以降で述べるとして、皆さんの身の回りにもハルの応用問題はたくさんあるでしょう。